



前橋育英高校報

題字 中村有三 学園長

建学の精神 ～正直・純潔・無私・愛～



CONTENTS



特集 2・3面

- ・ご挨拶
- ・ドラフト
- ・地域懇談会
- ・進路・スポーツ実績



保護者会だより 4・5面

- ・進路の日
- ・体育祭
- ・吹奏楽部 定期演奏会
- ・全国高P連大会
- ・マナーアップ



同窓会だより 6面

- ・同窓会長挨拶
- ・私の近況報告
- ・親子二代同窓生



後援会だより 7面

- ・後援会長挨拶
- ・総会報告
- ・インターハイ壮行会
- ・優秀前橋育英生
- ・コラム育英II



トピックス 8面

- ・全国大会出場決定
- ・科学部成果発表
- ・秋季関東野球大会

学園長挨拶

創立五十周年を越えて

中村 有三



昨年、創立50周年記念事業として第一体育館を建て替えたが、硬式野球部は創立以来の願望であった甲子園に

初出場し、初優勝という偉業をなし遂げ、全国にその名を轟かせ、記念すべき年に花を添えた。深紅の大優勝旗は、我が群馬県に持ち帰り、県民榮譽

理事長挨拶

『大いなる未来へ』

中村 義寛



前橋育英高等学校は昭和38年の創設から52年目を迎えました。

昨年は関係者、関係各団体の皆様のご協力により創立50周年の記念式典を挙行し、また、前橋育英硬式野球部の夏の甲子園初出場、全

校長挨拶

「立ち向かうこと」と「分かち合うこと」

竹瀝 敏



新年度を迎えるにあたり、毎年度を悩ますことがあります。学校経営計画、つまり学校としての重点目標の策定です。学ぶ生徒たちが

生きたりと活動し、個性を發揮することにもそれぞれの能力を高めることを支援する、私たち教職員の指針であり、生徒たちの目標でもあるわけですから簡単にはいきません。

国制覇が記念すべき年に花を添えてくれました。この間2万2千名を超える卒業生を輩出し、それぞれの方々が各方面で活躍されておられます。本校は「正直・純潔・無私・愛」の4つの道義標準に則り、常に国際的視野に立つて社会福祉と世界の平和に寄与できる有為な人材の育成を図ることを建学の理念に据え、生徒の能力・適性・進路に応じた目的別教育を実践してきました。前橋育英高校は、今後の更なる充実を図るため改革を実行し、より一層の文武両道を実現してまいります。

プロ野球ドラフト 西武1位指名 高橋光成



「球界引つ張りたい」

プロ野球の新人選手選抜会議(ドラフト会議)が10月23日、都内のホテルで開かれ、本校の高橋光成投手が西武から1位指名されました。

高橋選手は当日朝から普段通りに授業を受け、放課後荒井直樹監督と本校会議室でドラフト会議のテレビ中継を緊張した面持ちで見守りました。

見つめていた画面に自分の名前が表示されると表情が一瞬緩み、安堵の表情を浮かべ、小さい頃からの夢が現実のものとなった事を実感していました。その後多くのマスコミからマイクを向け



られると表情を引き締めて「日本球界を引つ張ってゆく投手になりたい。」と目を輝かせて宣言しました。その後視聴覚室に集まった約50人の野球部員やクラスメイトに囲まれ祝福されると「西武ライオンズの高橋光成です。ここまで来られたのはみんなが支えてくれたから。プロで恩返しできるような頑張りします。応援よろしくお願いします。応援よろしくお願いします。」と挨拶をします。応援よろしくお願いします。

荒井直樹監督は「プロに入った息の長い、誰からも愛される選手になってもらいたい」と激励し、さらにチームメイトの工藤陽平平将は「光成は、甲子園の優勝投手になっても謙虚だった。プロになっても自分らしさをしっかり保って活躍してくれるはず。」と期待を込めて話してくれました。

ドラフト会議の次週29日、西武の渡辺久信シニアダイレクターが学校を訪れました。前橋工業高校出身の渡辺さんは「同郷というのには関係ない。純粹にスケールの大きさに引かれた」と指名の理由を披露し、本人も「球界を引つ張っていき投手になりたい」と決意を新たにしました。

通算125勝の大投手を前に緊張した様子の高橋選手に対し、渡辺さんは「変化球を投げる時の指先の感覚が優れている」「10年15年とローテーションを守れば100勝、200勝も見えてくる。彼が投げたのだからしょうがない。と周りから思われたいといけない」とエースの心構えを説いて下さいました。

進路

～きっと見つかる、色んな夢～

過去3年間進路実績

大学合格者数 国立・準大学合格者数 私立大学合格者数
1,168名 **132名** **1,036名**
(現役1,065名) (現役110名) (現役956名)

進路の日Ⅰ類



Ⅰ類「進路の日②」は例年現役東大生講演会を実施していますが、今年は東大卒業生、びこーディネーターの東さんと東大院生であり、ライフイズテック取締役、讃井さんから数々のアドバイスを頂く、インスカッションの時間を過ごしました。印象的だったのは、「自分の生き方は、どんな人となら、どんな場所にいるのかで決まる」という高見所から、自分自身を見つめ、景色がある。という、自身の実感を念頭に、高い志を持つ事の重要性が、ごく自然に言葉に置き換えられた内容でした。

進路の日Ⅱ類



Ⅱ類「進路の日②」は今年も地元国立公立大学「群大、高経大、健科大、前工大」に在学する本校卒業生を招いたシンポジウムを実施しました。参加した生徒の感想を見ると、「自分たちと同じⅡ類卒の先輩方の話を聞いてとても刺激を受けた。」「先輩方は皆、早くから目標を持ち、SPや定期試験に向けて集中して勉強を続け、それが進路実現に繋がるのだということが分かった。」という内容が多く、改めて「Ⅱ類生が目指すべき進路」を確認できた様子でした。

校外夏期進学合宿を終えて



今年の進学合宿は、乍らぶりとなる新潟県津南町で7月22日～25日の実施となりました。2、3年生は各自の計画に基づいた完全自主学習、1年生は3教科(英数国)2時間ずつの講義と自主学習の2本立てで、各学年とも1日12時間以上、4日間で35時間という学習時間を確保できました。最終日の感想文には、充実した学習の実感がしっかりと込められていました。

大学見学を終えて



10月16日、今年も大学見学を実施しました。これは普通科全生徒が東大、政大、東洋大や日体大など首都圏の有名大学を訪問し、志望校決定の動機付けと、具体的な情報収集を目的とした進路行事です。当日は天気にも恵まれ、秋晴れの中、各コースで大学の職員や学生による案内をして頂き、憧れの大学の学食でランチを摂るなど貴重な経験をさせて頂きました。

地域懇談会について

本校では毎年2回、地元自治会の役員の方々をお招きし、「地域懇談会」という情報交換の場を設けています。従来は朝日が丘町と上新田町にお願いしていましたが、昨年度第2回目からは光が丘町と大利根町にも声掛け範囲を広げ、より多くのご意見を伺うことを心掛けています。

去る7月7日に行われた今年度1回目の地域懇談会では、自転車通学時の交通マナーや大雪時の除雪に関して貴重なご意見・ご指摘をいただきました。学校からは、野球場周辺の整備状況や県総体での10年連続22回目の男子総合優勝など生徒の活躍についての報告を行っています。



誌を配布・回覧してほしいとのご要望があり、本校の広報誌である「育英通信」や「保護者会通信」などを定期的に各自治会に配布し、本校教育諸活動に対してご理解ご協力いただく取り組みを行うことになりました。今後も地域の方々との連携を大切に、皆様に愛される前橋育英を目指していきたいと思っております。

スポーツ実績 2014 Summer～Autumn

陸上競技部

■男子
全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
 【三段跳】川島鶴慎(3年) 15m10 6位
長崎がんばらば国体2014第69回国民体育大会
 【三段跳】川島鶴慎(3年) 15m38 優勝
第49回群馬県高等学校総合体育大会
 駅伝競走の部 優勝

サッカー部

■男子
全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会 3位
U-19サッカー日本代表(SBSカップ国際ユースサッカー)
 鈴木徳真(3年) 渡邊凌磨(3年)
長崎がんばらば国体2014第69回国民体育大会
 群馬代表(14名) 2位
第93回全国高校サッカー選手権大会
 群馬県大会 優勝

■女子
群馬県高等学校女子サッカー選手権大会
 優勝(関東大会出場)

バスケットボール部

■男子
全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会 ベスト8
第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会(ウィンターカップ)県予選会
 優勝

自転車競技部

■男子
2014年ツール・ド・ラビディビ大会
 日本代表 小山貴大(3年)
第49回全国都道府県対抗自転車競技大会
 【ロード】小山貴大(3年) 5位
長崎がんばらば国体2014第69回国民体育大会
 小山貴大(3年) 出場

水泳部

■男子
第49回群馬県高等学校総合体育大会競泳学校対抗 優勝
全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
 【1500m自由形】岩井瑠樹(3年) 15分39秒01 5位
第37回全国JPCジュニアオリンピックカップ
 【200m自由形】松崎峻(3年) 1分53秒54 7位
 【1500m自由形】岩井瑠樹(3年) 15分38秒84 3位
 【200mバタフライ】井田悠斗(2年) 2分03秒16 7位

弓道部

第33回全国高校弓道選抜大会県予選
 ■男子団体 2位
 ■女子団体 優勝

ウエイトリフティング部

第47回関東高等学校ウエイトリフティング大会
 ■男子
 【56kg級】萩原拓郎(2年) トータル149kg 8位
 ■女子
 【53kg級】寺島奈穂(1年) トータル120kg 3位
全国都道府県対抗ウエイトリフティング選手権大会
 ■女子
 【53kg級】寺島奈穂(1年) トータル139kg 4位

剣道部

全国高等学校総合体育大会剣道大会
 ■男子団体 出場

柔道部

全国高等学校総合体育大会柔道大会
 ■男子個人
 【100kg級】吉川拓海(2年) 出場
 ■女子団体 出場

ボクシング部

■男子
全国高等学校総合体育大会ボクシング競技大会
 【ピン級】小林里駆(2年) 出場

女子テニス部

全国高等学校総合体育大会テニス競技大会
 【シングルス】渡辺理子(1年) 出場
長崎がんばらば国体2014第69回国民体育大会
 群馬代表 渡辺理子(1年) 6位

女子ソフトボール部

古河市全国高校招待女子ソフトボールフェスティバル 2位
 県高校夏季ソフトボール大会 3位

硬式野球部

U18アジア野球選手権大会
 【日本代表】高橋光成(3年)
第67回秋季関東地区高等学校野球大会
 県予選 2位(関東大会出場)

保護者会だより

第二回 進路の日

Ⅲ類・Ⅳ類・保育科

進路指導委員長 中村 剛

9月18日に第2回「進路の日」が実施されました。今年度は、初めての試みとしてⅢ・Ⅳ類と保育科については「保護者による職業観育成ワークショップ」という形での実施となりました。

具体的には、保護者会有志の協力により、1・2年生は体育館で3人の保護者から、3年生はそれぞれの教室を保護者が回る方法でそれぞれ2名の保護者から、保護者自身の仕事や職業経験を通して感じた「働くということ」は、「社会で必要な心構え」などを話してもらいました。

協力頂いた保護者の方々からも、「緊張したが貴重な経験だった」などと感想をいただきました。



今年度の「進路の日②」は一部、保護者会の協力を頂き、職業観育成ワークショップの開催となりました。3年生のⅢⅣ類、保育科各クラスで講演(特別授業)、1・2年生には体育館での進路講演となりました。内容は「将来の就職までに知っておくべきこと」、職業とは自分の興味関心、能力適性が活かせて、自己実現と社会貢献が同時に達成できるのがベスト。しかし現実はそのならないことも多いが、仕事に打ち込む過程で社会や人との関わり方を知り、やがて価値観や生き甲斐を感じていくも



のだ。という実社会を生きる保護者ならではの貴重なお話をさせて頂きました。

進路の日のワークショップで学んだ事

3年8組 市川 牙子

保護者代表の講師の方々のお話を聞き、様々な経験・日々の積み重ねが将来に役立つことがわかりました。「先入観を捨て、素直な気持ちで人と接することが大事だ」と、特にコミュニケーションの力を付けておくことの重要性を伺いました。私も将来に備えて、興味を持っていくことに偏らず、積極的に多くのことに挑戦し、誰とでも会話できる様になりたいと思いました。

また、自分の希望している職に就ける人は多くなく、その中にあるや、やり甲斐や達成感を見出し、長く続ける難しさも伺いました。お話を聞き、日常の生活を大切に過ごし、将来の就職につながる様に成長していきたいと思っています。



体育祭

平成26年度

体育祭を終えて

体育祭実行委員長

3年11組 竹中 瑚南

体育祭の開催に際しては、生徒会や先生方、体育祭実行委員のみなさんのおかげで、準備や当日の運営までスムーズに進めることができました。残念ながら今年度の体育祭

進学合宿について

7月22日、進学合宿が行われました。学校に残る先生方と進路委員で、出発するバスを見送りました。保護者会からは、フルーツやドリンク等を差し入れました。



最後に、3年生はこれから受験を控えた人も多く、人生を左右する大切な時期になると思います。くじけそうになることもあると思いますが、体育祭で頑張れたことを忘れず、前橋育英高校の生徒であることを誇りに思い、目標に向かって努力していきましょう。

私たち生徒会としては準備や当日の運営、片付けと大変な面もありましたが、皆さんが楽しんでくれたことが一番嬉しく、「頑張つて良かった」と思いました。先生、生徒全員にとって良い思い出になつていればいいなと思っています。(10月22日実施)

体育祭を振り返って

生徒会長

2年2組 松田 学

私にとって最初で最後の体育祭は天候に恵まれず、雨の中始まりました。



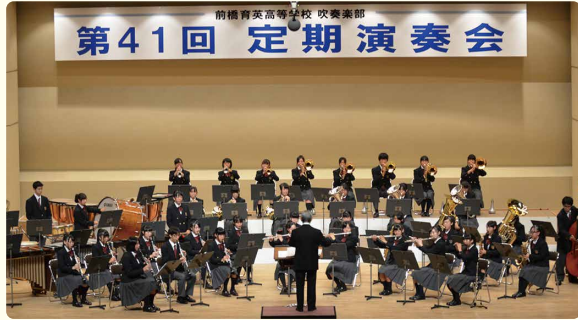
吹奏楽部

第41回定期演奏会を終えて

指導者 熊井 正之

去る9月23日、前橋市民文化会館に於いて、第41回定期演奏会を開催致しました。当日は800名を大きく越える方々にご来場頂き、盛大な演奏会となりました。

今年度、部員たちは吹奏楽コンクールで二年連続県代表に選出されたこともあり、部長を中心とし



て例年以上に団結していました。その一体感を演奏会の舞台でも存分に発揮できたと確信しています。3年生はこの演奏会を最後に引退となりましたが、今後は後輩たちがその情熱や伝統を引継ぎ、より一層の部の発展と音楽性・人間性の向上に励んでいくものと信じています。ご来場くださった皆様、また様々な形でご支援くださった関係各位に対し、この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

第64回全国高P連大会

会長 亦野 高裕

第64回全国高校PTA連合大会が8月22、23日福井県で開催されました。

各都道府県から保護者、教員ら約1万人参加した中、前橋育英高校から5名が参加しました。「教育と考福」をメインテーマに、基調講演では脳科学者の茂木健一郎氏は、「考福脳」という視点からの興味深い講演や、各分科会に分かれ学校教育や生徒指導、家庭教育など子供の幸せのために何ができるかを議論しました。県内の生徒や進路指導者らへ交えた座談会もあり、明確な目標がある生徒には「広い視野を」、進路を迷う生徒には「進学してゆつくり考えることがあってもいい」とのアドバイスがありました。これからのグローバル化にも注目し、企業経営者の方から「これからは海外を無視して生きられない、英語を話せないことは子供の可能性を狭める」との意見もあり、私



も社会人として、最低でも般会話程度の英語力は身に付けておくべきだと痛感しました。大会では色々な情報も得られ、福井県までの道のりの中では、校長先生や保護者会の仲間と色々な話もできた有意義な大会でした。

中毛地区高P連

PTA指導者

研究集会を終えて

副会長 笹川 章子



10月15日、伊勢崎市民文化会館にて、群馬県中毛地区高等学校PTA指導者研修会が行われました。

前橋から2校・伊勢崎から2校の計4校のPTA会長により、高校教育の振興やPTAの在り方など発表が行われました。そして、伊勢崎工業高校・前橋女子高校・前橋高校・四ツ葉学園の生徒によるプレゼンテーションが行われ素晴らしいと感じ、終了いたしました。今後ともPTAの二層の充実を図っていけるよう活動してまいります。

前橋まつり生徒指導

生徒指導副委員長 渡邊 松子

10月11日(土)前橋まつり巡視が行われました。前橋市役所に集合し校長先生をはじめ先生方11名、保護者21名で3班に分かれ出発しました。巡視中に何名かの生徒に会い、口頭での声掛けでしたが意識づけになったと思います。生徒達の為にも今後も協力していきます。



学校見学会に参加して

書記 土屋 秀子

10月23日、高崎商科大学附属高等学校本部棟において群馬県私立中学高等学校保護者会連合会の学校見学会が行われました。今年完成した真新しい会議室で、森本校長先生から創立109年目を迎える商大附の歴史と施設の紹介があり、伝統の重みを感じました。商大附父母の会及び明和県央高等学校教育振興会により、VTR等を交えての活動報告が行われ、特徴ある学校紹介や生徒を多方面から支援している様子が伺えました。立派な木造建築の講堂で吹奏楽部、空手道部やベップアーツ部の温かいおもてなしを受け、感動しました。

マナーアップ

生徒指導委員長 齋藤 恵子

前橋育英高校は、県下一斉のマナーアップ運動を年3回行っています。今回のマナーアップでは、生徒が登校する時間帯8時10分から8時50分の間、新前橋駅付近と学校周辺の約10箇所に通学指導担当の先生方と保護者で、交通及び通学指導を行いました。特に自転車通学において、斜め横断、二人乗り、並列走行、信号無視、イヤホン等をして運転していないかを指導しました。殆どの生徒がしっかりとルールを守って登校をしていました。挨拶がしっかりとできて、朝からよい気分になりました。流石、前橋育英の生徒だと思いました。

前橋育英

雄渾

同窓会
だより

飛翔



同窓会長 新井 信雄
(第3期生 昭和42年度卒)

前橋育英高等学校同窓会員の皆様には日頃より物心両面に多大な御支援を頂き心より感謝申し上げます。

同窓会総会が平成26年7月19日、アバシーコートラシーネにて盛大に開催し無事に終了できました事をこの場を借りて御礼申し上げます。

当日は長年の懸案である同窓会館の建設について、親子二代、そして三代が育英生となる時を見据え、総会を学校で開催できるという同窓会館の建設を目指したいという考えを表明させていただくなど、充実した内容の総会でした。

後輩である在校生の活躍は本年度も目覚ましく、運動部は平成26年度、全国高校総合体育大会において「煌めく青春、南関東総体2014、君の汗輝く、一滴勝利の雫」というスローガンのもと若々しい迫力で生懸命に戦い、上位入賞者を多数出しました。

また、昨年度甲子園にて初出場全国制覇を成し遂げた硬式野球

部は新人メンバーで第67回秋季関東地区高校野球大会県予選会で堂々準優勝し、関東大会に出場することができました。

文化面においても吹奏楽部、囲碁将棋部、百人一首同好会、放送無線部等の活躍が光りました。

ボランティア活動にも積極的に取り組み、清掃・募金等で地域社会の厚い信頼を受けています。

これからも生徒、先生方共に互となつて頑張つて前橋育英の輪を広げて頂き、我々も同窓会としてしっかりと母校前橋育英高等学校の発展を支えていきたいと思ひます。

卒業して27年、再び、高校の門をくぐることとなりました。子どもも成長の過程では、親は子を見立ちの遠い記憶を思い起こします。これは親として自然な振る舞いなのかもしれません。況して子どもが高校生ともなると自分が高校生であった頃の記憶がはつきりしているため、その照らし合わせの映像が具象的に浮かび上がります。

育英高校に入学した30年前、入学式の当日の景色、校舎や体育館、初めて聴く

親子二代同窓生

狩野 豊 第23期生・昭和62年度卒
遼太郎 普通科1年



前橋育英高校を卒業して27年、再び、高校の門をくぐることとなりました。子どもも成長の過程では、親は子を見立ちの遠い記憶を思い起こします。これは親として自然な振る舞いなのかもしれません。況して子どもが高校生ともなると自分が高校生であった頃の記憶がはつきりしているため、その照らし合わせの映像が具象的に浮かび上がります。

育英高校に入学した30年前、入学式の当日の景色、校舎や体育館、初めて聴く

私の近況報告

(第43期生・平成20年度卒)
小木曾 朋子



2008年の卒業から6年が経とうとしております。私は卒業後、高崎経済大学に進学、現在はコカコーライーストジャパン株式会社の営業として地元県内で勤務しております。

在学中はバスケットボール部に所属し汗を流し、仲間と音楽を共にしてきました。また機会を与えて頂き、生徒会長として生徒会活動にも携わり、文化祭の企画実行

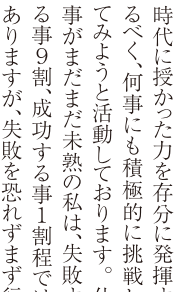
や、学校文集「翼」の制作なども振り返るとどれも懐かしく、大変貴重な経験をした三年間でした。

私は厳しい就職活動の末、現在の会社に勤めておりますが、高校時代に授かった力を存分に発揮するべく、何事にも積極的に挑戦してみようと活動しております。仕事はまだまだ未熟の私は、失敗する事9割、成功する事1割程ではありますが、失敗を恐れずまず行動、そう自分に言い聞かせながら業務に励んでおります。しかしそうは言っても、時々落ち込んだり悩んだりする時があります。そんな時に私を支えてくれるのが、高校・大学時代の友人たちです。出会うから何年もの月日が経ちますが、今でも変わらずぬつき合いができることに信頼と喜びを感じています。

最近の仕事の関係で育英高校に向くことも多くなりました。

山本和徳

(第40期生・平成17年度卒)



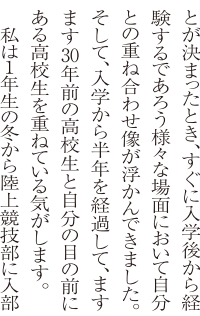
このたび、近況報告をさせていただくことになりました。山本和徳と申します。私が前橋育英高

卒業してから6年も経つというのに先生方は私の名前まで覚えていて下さいました。そのことに驚くと同時に先生方の変わらぬお姿が懐かしく、ほっと安心した気持ちになりました。また先生方に私のちよつと成長した姿も見ていただけてよかったです。

今や「前橋育英高校」の名を知らない人はいないかと思ひます。改めて、母校を誇りに感じると共に、さらなる「活躍を楽しみにしています。

親野 豊

第23期生・昭和62年度卒
遼太郎 普通科1年



前橋育英高校を卒業して27年、再び、高校の門をくぐることとなりました。子どもも成長の過程では、親は子を見立ちの遠い記憶を思い起こします。これは親として自然な振る舞いなのかもしれません。況して子どもが高校生ともなると自分が高校生であった頃の記憶がはつきりしているため、その照らし合わせの映像が具象的に浮かび上がります。

育英高校に入学した30年前、入学式の当日の景色、校舎や体育館、初めて聴く

校歌、理事長や担任の先生(五百川先生)のお話など、はつきりとした記憶として、自分のなかに存在しています。長男が母校である育英高校に入学することが決まったとき、すぐに入学後から経験するであろう様々な場面において自分との重ね合わせ像が浮かんできました。そして、入学から半年を経過して、ますます30年前の高校生と自分の目の前にある高校生を重ねている気がします。

私は1年生の冬から陸上競技部に入部させていただきました。そのときの顧問は中村先生と安達先生でした。途中入部を許可して頂き、陸上競技部員になれたことで、私の高校生活は変りました。練習や試合で経験する緊張感、部員との交流、肉体的な限界へ挑む勇気など、競技者としての日々が始まりました。毎日が全力疾走でしたが、それでも目標としていたインターハイに出場することは叶いませんでした。インターハイの最終予選となった関東大会の翌日、朝練習のことです。安達先生から呼び止められ、陸上の続きは太学でやらないかと言葉をいただきました。この言葉の意味はとも重く、中途半端なものなど、心が伝わってききました。夢が叶わなかった自分の心が次の目標に向けられた言葉でした。結果的に、迷いなくこの日から受験勉強に本腰を入れることができました。受験勉強においても、多くの友人の助言や先生方にお世話になりました。とくに、入学当初からご指導いただいた久保田先生からは多くの学びを経験させていただきました。それから半年後、大学に入学し、陸上競技の続きを再開しました。大学の4年生になって、初めて全日本インターカレッジで入賞し、これを安達先生に報告できたことは、陸上の続きは大学でやらないか」という言葉に対して、わずかなが

らも恩返しになつたと思ひます。

中学校まで野球部に所属していた長男も高校入学と同時に陸上競技部に入部し、安達先生をはじめ多くの方から指導を受けています。他の部活動と同様に、強豪校として全国に知られている現在の陸上競技部は30年前とはいろいろなところで違うと思ひます。しかし、朝練習や放課後の練習メニューを聞かされると、30年前と共通したのもも多く、まるで自分自身の姿を後押しするように、初心者マークをつけてグラウンドを疾走する長男を応援したくなります。

高校での生活は、大学や社会人への橋渡しの時間であるといえます。しかしながら、この橋渡しの時間は、単に訓練や準備期間ではなく人生でかけがえのない大切な時間です。長男も、前橋育英高校生として、この大切な時間を謳歌してほしいと思ひます。

私は、弁護士になつてから、書面を書く、法廷に行く、依頼者との打ち合わせを行う、電話応対をするなど、時間に追われる生活を送っております。時には深夜1時を過ぎることもあり。しかし、そんな時でも休みの日に先輩弁護士等とゴルフに行つてリフレッシュしており、さほどストレスがたまるということはありません。また、以上のような日々の業務以外にも、中学校や高校に出張し、法的な考え方の重要さを説明する授業を行つたりもしています。

このような業務や出張授業を行つて依頼者や生徒さんの笑顔を見るたびに、弁護士になつてよかったですと感じます。

紙面の都合上、この場で多くは語れませんが、以上をもちまして、私の近況報告とさせていただきます。

卒業してからは平成17年です。すでに9年以上が経過しております。

私は、前橋育英高校を卒業後、獨協大学、中央大学法科大学院に進学しました。そして、平成24年度の司法試験に合格後、1年間の研修を経て、現在、高崎市にある「高橋三兄弟法律事務所」にて弁護士業務を行っております。

当時の育英高校の先生方は「存知かもしれませんが、私は、非常に体たらくな高校生活を送っており、勉強も苦手としておりました。しかし、政治経済の分野の憲法や法律に関する問題だけはすんなり解くことができ、自然と興味を持ってました。このようなこともあり、私は、法学部に進む決意をし、どうせ法学部で法律を学ぶなら司法試験を受けてみようと思ひ、大学進学直後から法学の勉強を始め、今に至ります。

後援会だより

育英魂は永遠なり



後援会長 前田 勇

去る8月25日、本校グラウンドで、昨夏の甲子園全国制覇記念碑の除幕式が執り行われました。私も後援会を代表して参加させていただきましたが、当日の中村有三学園長先生の胸中は、言葉では言い表

せない感動に満たされているのではないかと思います。灼熱の甲子園で選手達が見せてくれた最後まで諦めない不撓不屈の精神力は、前橋育英の誇りと言えます。この記念碑を見る度に、その快挙は代々後輩に語り継がれ、育英魂として伝統になっていくものと思っています。

さて、毎年11月に行なわれている優秀前橋育英生の表彰式は、今年は12月24日の第2学期終業式終了後に行われることになりました。

平成二十六年年度

後援会定期総会

7月4日(金)ラシーネ

よろしくお願ひします

副会長 加藤 圭子

7月4日(金)18時(ラシーネ)に於いて定期総会が開かれました。

今年度も、いつも優しい笑顔で接して下さり、人生の先

た。優秀前橋育英生は、全国大会で優勝または世界選手権や国際大会に出場した運動部生徒、関東大会や全国大会に出場した文化部生徒、人命救助やボランティア活動で特に功績があった生徒などに贈られるもので、今年度表彰される生徒は14名+クラブと多数ですが、全生徒の前で表彰されることは本人にとっても大変名誉なことです。大会での活躍は日頃の厳しい練習のたまものであり、心より敬服いたします。今後とも研鑽を積み、さらなる目標に向かって邁進していくことを期待しています。

インターハイ壮行会

7月18日 視聴覚室

「潔くあれ」

副会長 福島 英人

前橋育英高校は全国高校総体において、素晴らしい成績を示してくれた。建学の精神である『正直・純潔・無私・愛』を心に秘め、勝利しても驕ることなく自分の力を発揮させてくれた相手に感謝し、敗退しても腐ることなく相手の力を称賛し次への糧とする、『潔い』試合をしてくれたのではないかと。君たちが対戦した相手は、必ず次の機会にも対戦する。君とはもう一度対戦したいと思われるような、潔い試合を続けて欲しい。



平成26年度「優秀前橋育英生」

今年度の「優秀前橋育英生」は、次の生徒達に贈られます。表彰式は12月24日終業式後に執り行われます。

- 陸上競技部** 川島鶴模(3-8) 長崎がんばらば国体少年男子A三段跳優勝
- 硬式野球部** 高橋光成(3-12) U-18アジア野球選手権準優勝
- 男子サッカー部** 渡邊凌磨(3-11) U-19日本代表
- SBSカップ国際ユースサッカー** 鈴木徳真(3-12) U-19日本代表
- AHF NUTRIFOOD U19 CUP2014** 3位
- 水泳部** 天田雄大(2-10) 第2回ユースオリンピック大会(中国・南京) 400m自由形・200mバタフライ 出場
- 自転車競技部** 小山貴大(3-9) 2014年ツール・ド・ラビティピ大会(U-CIジュニアネーションズカップ) 出場
- 吹奏楽部** 第20回西関東吹奏楽コンクール 高等学校B部門 銅賞
- 放送無線部** 成田梨生(3-1) 第61回NHK杯全国高校放送コンテスト
- 中島舞(3-2)** 第61回NHK杯全国高校放送コンテスト
- 小野有紀乃(3-1)** アナウンス部門 出場
- 第38回全国高等学校総合文化祭** 茨城大会 アナウンス部門 出場
- 囲碁将棋部** 宮崎裕貴(3-5)・堀川亜美(3-2) 第38回全国高等学校総合文化祭 茨城大会 囲碁部門個人戦 出場
- 百人一首同好会** 福島勇氣也(3-5)・松本航平(3-3) 第38回全国高等学校総合文化祭 茨城大会 小倉百人一首かるた部門 団体戦 第3位
- 弁論愛好会** 金井晴香(2-6) 第62回全国高等学校決勝弁論大会 出場

コラム育英Ⅱ

東京オリンピック 2020

1964年の第18回東京オリンピックから56年後、再び2020年、東京開催が決まっています。現在開催に向けて新国立競技場の新築や交通機関の整備など様々な動きが見えています。その他には選手の育成に力を入れ始め各県や国で色々な案が取り入れられ、16才〜20才をターゲットに多大な育成費が予算に組み込まれてきました。この開催は様々な分野の人たちにとって人生でも重要な時と私は考えています。「チャンスをおぼむ、目標に向かう」この言葉が形となるのが今回のオリンピックではないでしょうか。(O記)



全国大会 出場決定!!

男子サッカー一部 「第93回全国高校サッカー選手権大会出場」

第93回全国高校サッカー選手権大会

2014/12/30(火) ~ 2015/1/12(月・祝)
埼玉スタジアム2002ほか



監督 山田 耕介
「群馬クラシコ」選手権決勝は、伝統の一戦になった。30年間で、前橋育英17回・前橋商業11回が群馬の優勝である。決勝での対戦は、今回が12回目。選手達には今までの熾烈な戦いを映像で見せて、この伝統の戦いが群馬のサッカーを支えリードしてきたことを理解させ、覚悟をもって決勝に臨んだ。結果、優勝。今度は、全国大会での更なる飛躍を期待する。

女子サッカー一部 「全国大会出場に向けて」

第23回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

2015/1/3(土) ~ 1/11(日)
ノエビアスタジアム神戸ほか



監督 大手 真智子
今までたくさんの方々に応援して頂き、そしていつも温かく見守って下さったおかげで、この度初めて全日本高等学校女子サッカー選手権大会に出場することができました。この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。私達は、チャレンジャーとして、全国の舞台で一生涯懸命に頑張りますので、応援よろしくお願致します。

陸上競技部 「総合力の勝利」

第65回全国高等学校駅伝競走大会

2014/12/21(日)
京都市西京極陸上競技場
付設マラソンコース



監督 安達 友信
一昨年一年生主体のチームで県大会を制し、勢いで臨んだ全国高校駅伝は38位という悔しい結果に終りその後リベンジに燃えて厳しい練習に励んできた。今年の夏合宿を全て順調に終えて、いよいよ仕上げに入った9月、監督として私が生徒達に与えたテーマは「普通にやる事」だった。プレッシャーの掛かる重要な試合では試合が近づくマイナス面ばかりが気になり不安が増してくる。しかし今年のチームはしっかりとした準備ができていたので新たな課題を見つける事はせずゆったりと当日を迎える事が大切だと考えた。必死に頑張ってきた生徒達、そして私がグラウンドに立てないときもしっかり指導してくれた木村コーチ。正に総合力の勝利であった。今年こそ京都での総合力を発揮して前橋育英が上位を走る姿を見て頂きたい。

弓道部 「みんなで勝ち取った全国への切符」

第33回全国高等学校弓道選抜大会

2015/1/10(土) ~ 1/12(月・祝)
鹿児島アリーナ



顧問 真下 智紀
10月25日(土)に行われた群馬県新人大会において女子団体で5年ぶりに優勝し、1月10日(土)~1月12日(月)に鹿児島県で行われる第33回全国高等学校弓道選抜大会に出場することになりました。本大会においても、入賞目指して1つでも多く勝ち上がるために、基本を忘れず日々努力してまいりますので、応援よろしくお願致します。



硬式野球部 秋季関東大会を終えて

硬式野球部 部長 中沢 洋一

この度の秋季関東大会出場に際し、温かいご支援、ご声援をいただき、誠にありがとうございました。選抜大会の重要な資料となる地区大会、選手・指導者ともに「できる準備」をして臨みました。が、初戦の平塚学園戦で2対5の逆転負け。「まだまだ…」を痛感すると同時に、上位大会に出場することで得られる経験、更には今後の課題が明確になった試合でもありました。この貴重な経験を今後に生かすためにも、日々の生活から精進する所存です。今後ともかわらぬご声援を宜しくお願い致します。

科学部



群馬県SSH・SPP等合同成果発表会 (中間発表)

平成26年9月23日
群馬音楽センター

本校科学部では埼玉大理学部のは枝先生のご指導の下、アイスプラントの有効性を探る研究を平成24年度からおこなっています。今年度は昨年度に引き続き、アイスプラントによるカドミウム吸収と蓄積について追求しています。その中間報告を9月23日(火・祝)に群馬音楽センターにて他校生徒の前で堂々と発表しました。ここまでの研究ではカドミウムの吸収がうまくいかなかったため、カドミウム濃度の再検討を含め、引き続き研究していきたいと考えています。

編集後記

文化副委員長 河合 洋子

今年は夏の暑さがいつまでも続きましたが、季節は巡り、朝夕の冷え込みから冬の訪れを感じるようになりました。今号は合同誌ということでもさまざまな活動が掲載されています。育英高校の活躍をご覧頂けたでしょうか。ご寄稿頂いた皆様、合同誌発行にご協力頂きました皆さま、また方へこの場をお借りして感謝と御礼を申し上げます。

合同誌広報委員

保護者会

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 野口 治代 | 生方 桂子 | 河合 洋子 | 花泉 淳子 | 増田 衣子 | 茂木 和泉 | 原 陽子 | 徳丸 律子 | 三浦 優子 | 長井 愛 | 真下 香里 | 上原 敏広 | 小椋 靖晃 | 船津 善昭 | 神山 義幸 | 安達 友信 | 戸塚 浩美 | 岡上 直美 | 真下 智紀 | 湯浅 彩子 | 塚田 千春 | 宮澤 千春 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|